



令和6年4月15日
第880号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0001 東京都千代田区
九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
00160-6-25389
電報掛 盛川英治
編集 毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

令和6年度 政府予算 「平和の語り部」事業化決定 水落会長、二之湯理事が陳情

3月28日、一般会計総額が11兆5717億円の令和6年度政府予算は参議院本会議で可決、成立した。社会保障費や防衛費は過去最大を更新し、5年度当初の約114兆円に次ぐ過去2番目の規模となる。能登半島地震の復旧・復興財源を含め、厳しい予算の中で「平和の語り部」を含む本会の要望は概ね認められた。

令和6年度政府予算案は、自民党が政治不信を招いた事態の説明等に対し、野党からの政権批判が相次ぎ、予算審議は難航した。しかし、与党は能登半島地震の復旧対応

を含む予算の確実な成立を目指し、丁寧な説明に努め、3月28日成立した。本会関係では、平和の語り部の予算が確定し、いよいよ事業始動となる。これに先立ち、財政状況

組織継承「語り部育成」

各地の取り組み紹介

各地域において組織継承の研修会が開催された。

語り部活動のスタートを切る事例として観音寺市の取組を紹介したい。

(香川県) 3月2日、役員・女性部・青年部合同研修会が県遺族会館で開催され、「戦後80年に向けた組織継承3カ年計画」(以後、継承計画)の研修のため、本部担当者が派遣された。

観音寺市遺族連合会女性部は平成24年の研修会で、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐことと「語り部の会」を結成し、まずは、自身の体験談を思い出すための対話から、アンケート等を実施の上、自分史を作成。その過程で、「命は一枚の紙じゃ

香川県内では、各地域で語り部活動が行われており、三豊市、普通寺市では、市内の小中学校で修学旅行の事前学習を含

「語り部の会」を結成し、まずは、自身の体験談を思い出すための対話から、アンケート等を実施の上、自分史を作成。その過程で、「命は一枚の紙じゃ

ない」とする紙芝居を作成し、地元短期大学や報道機関等の協力も得てDVDを作成している。

また、本部では、3月6日、水落敏栄会長、京都府遺族会会長の二之湯智(元総務大臣)元参議院議員、本会理事が、大串正樹(衆議院議員)自民党厚生労働部会長、新谷

正義衆議院厚生労働委員長、比嘉奈津美参議院厚生労働委員長の三氏に個別に面会し、戦後80年に向けた組織継承3カ年計画



大串正樹厚生労働部会長に陳情
= 3月6日、衆議院議員会館で

画の核心に当たる特別弔慰金の継続と、令和6年度新規事業の「平和の語り部」事業の必要性などを説明し、早期の予算成立を陳情していた。

戦後80年となる令和7年度に向け本会は平和を希求する団体の自負を持ち、一層活動に努めなければならぬ。

厚生労働省で 人事異動

厚生労働省で人事異動が行われた。本会に関係のある方は次のとおり。

▲大臣官房審議官(援護局担当) 鳥井 陽一氏 (4月1日付)

謹 哀悼

真鍋賢二氏 日本遺族会元理事。香川県遺族連合会元会長。
令和6年3月2日、逝去された。88歳。告別式、葬儀は近親者のみで行われた。喪主は長男健氏。

支部における周知に生かすため、アンケートを実施する工夫が図られた。(大分県) 3月28日市区町村・地区遺族会会長・女性部長・靖友部長・青年部長合同会議がJ・C O Mホールで開催された。同県では、令和5年度3回にわたり継承計画周知の機会を設け、県内役員に理解を求め、本研修会は次年度の実行に向けた総締め括りであった。出席した本会水落会長は継承計画への協力に対する感謝と更なる支援を依頼した。(石川県) 3月30日、青

靖国神社宮司に 大塚海夫氏が就任

靖国神社宮司に 大塚海夫氏が就任

靖国神社では、山口建史氏の退任に伴い、4月1日付で大塚海夫氏が第14代宮司に就任した。大塚氏は防衛省の情報本部長などを歴任した海上自衛隊の元海将で、退

声なき声

年度末も押し迫った3月25日から、サイパン島に設置した破損慰霊碑を埋設する埋設記念碑の完成に伴う慰霊祭と、それに係る現地関係者へのお礼に行ってきた▼サイパン島は第一次大戦後、日本の委任統治領となり、南洋興発等の企業が進出し、現地住民と日本人は良好な関係で平和に暮らしていた。しかし昭和18年、ソロモン諸島、東部ニューギニア戦線の急迫により、米軍がサイパン島に襲いかかり、日本軍は後退を余儀なくされ、昭和19年7月7日午前3時を期し最後の総攻撃を敢行し、玉砕に至った。

兵士だけではなく、多くの民間人も亡くなった▼戦後、サイパン島には戦友や親族を失くした多くの日本人が訪れ、亡き英霊を偲び、慰霊碑が多く建てられた。しかし、雨風や自然災害等で壊れ、修復されず放置された碑や台座は、環境美化を害していた。本会は、不良と判定した碑を処置するために、昨年から現地関係機関と調整を行っていた。しかし許可一つとるにも大変で、木の根一本切るだけでも許可がいる中、五つもの機関の許可を得ての完成だった▼今後、亡き肉親等を偲んで慰霊碑等を作ることにない平和な世の中にしていかなければならない。故に、平和の尊さがいかに大切かを知っているご遺族には、4月から始まる平和の語り部事業に是非とも協力願いたい。(M)

靖国神社

みたままつり献灯のご案内

靖国神社みたままつりが、7月13日から16日までの4日間賑々しく執り行われます。ご遺族・崇敬者の方々など、多くの皆様の献灯をお願いいたします。

献灯初穂料 ○小型献灯 1灯につき5千円 ○大型献灯 1灯につき2万円

戦没者 遺骨収集事業

ソロモン諸島へ派遣 ガダルカナル島から検体を送還

日本戦没者遺骨収集推進協会(推進協会)は、3月8日から21日の期間でビスマーク・ソロモン諸島第2次遺骨収集派遣を実施し、本会からは遺族2人が参加協力した。今回の派遣では過去に収容して現地協力者宅に仮安置されていた遺骨を鑑定し、51柱相当の遺骨の95検体を採取し、本邦へ送還した。



現地住民の協力を得て試掘する団員=3月16日、ガダルカナル島・ムカデ高地で

3月8日、派遣団員は、施し、団員全員の陰性を確認したうえで結団式を型コロナの抗原検査を実行した。9日に羽田空港を出発した派遣団は、シナガポール、ポートモレスビーを経由して10日にガダルカナル島(以後、ガ島)のホニアラに到着した。

本派遣では、遺骨鑑定班と収容班に分かれてガ島内で活動した。遺骨鑑定班は、過去に収容された協力者宅に仮安置されていた遺骨を丁寧に洗骨し、厚生労働省(以後、厚労省)の遺骨鑑定専門員が鑑定した結果、41柱の遺骨が判定され、判定された遺骨から83の検体を採取した。また、バラ

推進協会は、令和5年度第1次遺骨収集派遣において既にガ島から135検体を送還しているが、厚労省の「所属集団判定のためのDNA鑑定」により日本人の遺骨であると判定された遺骨については、現地で焼骨し、日本へ送還されることになっているため、その鑑定結果が待たれている。

サイパン島で慰霊碑を埋設 海外民間建立慰霊碑移設等事業

日本遺族会が厚生労働省から委託を受け実施している海外民間建立慰霊碑移設等事業で、3月24日から28日の期間で盛川をマリアナ諸島サイパン島に派遣し、スーサイド



埋設記念碑に献花し、戦没者の冥福を祈る高垣了士事務所長=3月27日、サイパン島で

クリフに民間団体等が建立した慰霊碑で、維持管理状況が「不良」と判定した破損慰霊碑を埋設し、埋設場所に記念碑を設置した。

前回は11月の派遣で、マツピ山頂にあるスーサイドクリフの「平和記念公園」内に、経年劣化自然災害等で破損した慰霊碑及び台座19基の埋設と埋設記念碑の設置に関する計画を現地政府関係機関に説明し、北マリアナ歴史保存局(HPO)、環境省(BECQ)、公有地管理局(DPL)、魚類野生生物局(FWS)、都市計画事務所(CZB)等の各関係機関から要求された埋設に必要な許可申請手続きを進め、昨年末にすべての機関から許可を取り付けることができた。その後、現地の建設業者に埋設作業を委託し、指定された場所への慰霊碑及び台座19基の埋設と埋設記念碑の設置を依頼していたが、今回の派遣で最終的に埋設が完了した。

党大会 運動方針を示す 自民 靖国、護国神社参拝を明記

自由民主党は3月17日、東京都内のホテルで、第91回定期大会を開催した。岸田文雄総裁は演説で、深刻な政治不信を招いたことを陳謝し、国民の信頼を回復するため、改革を断行すると決意を語った。令和6年度運動方針に

地方だより

- ▼兵庫県 2月18日
青年部主催第5回証言講演「戦争の記憶」語り部の会(75人)
- ▼宮城県 2月29日
宮城県市町村遺族会研修会①石巻・女川地区遺族会(34人)、②白石市遺族会(32人)
- ▼香川県 3月22日
戦後80年に向けた組織継承3カ年計画研修会(25人)
- ▼栃木県 3月3日
令和5年度栃木県遺族連合会女性部主催栃木県遺族連合会研修会(160人)
- ▼山梨県 3月3日
一般財団法人山梨県遺族連合会(23人)
- ▼石川県 3月30日
石川県遺族連合会会議・研修会
- ▼大分県 3月28日
令和5年度市町村・地区遺族会役員合同会議(180人)
- ▼愛媛県 3月11日
令和5年度愛媛県戦没者遺族大会(500人)
- ▼兵庫県 3月16日
一般財団法人兵庫県遺族会理事会(63人)
- ▼徳島県 3月9日
会「青年部発会式(18人)同日午後、第48回山梨県遺族会女性部大会(95人)
- ▼千葉県 3月10日
第3回女性部・青年部合同会議(20人)

念公園)内に、経年劣化自然災害等で破損した慰霊碑及び台座19基の埋設と埋設記念碑の設置を依頼していたが、今回の派遣で最終的に埋設が完了した。

クリフ「平和記念公園」で、高垣了士在サイパン領事事務所長をはじめ関係者が参列し、「慰霊碑埋設に伴う慰霊祭」を挙行した。参列者は、サイパン島に眠る戦没者の冥福を祈り黙祷を捧げ、埋設場所に建てられた埋設記念碑に献花した。

本会は今後も海外に民間団体等が建立した慰霊碑で維持管理状況が「不良」と判定されたものについて可能な限り、整理統合を進めていく。

遺骨収集 硫黄島、南方各地へ派遣 インドネシア・ヤカチを初調査

推進協会は、1月から3月にかけて海外4地域、国内硫黄島(別掲)に相次いで現地調査、フォローアップ調査団を派遣し、本会からもそれぞれの地域へ関係遺族等が参加協力した。

ヤカチ村での調査を実施した。日本側派遣団とインドネシア側の教育文化省職員とで日尼合同チームを編成し、西パプア州政府、マノクワリ県庁及びトゥルク・ピント二県庁で事業を周知するとともに、ピント二からヤカチ村までポートで片道4時間をかけて赴き、現地住民に対し、残存遺骨に

関する情報提供を呼びかけた。本会から本派遣に参加した兵庫県遺族会青年部員は、「平和の語り部」として、遺骨収集事業での自身の体験について積極的に講演活動を行っている。

令和6年度の遺骨収集事業の参加者募集を各支部事務局で受け付けており、青年部世代がより多く参加し、同事業の意義を語り継いでいくことが期待される。



現地住民に事業を周知し遺骨情報の提供を呼びかける団員=3月2日、インドネシア・ヤカチ村で

令和5年度 日本戦没者遺骨収集推進協会主催 現地調査実施表

派遣名	実施地域	実施期間	本会参加人数
マリアナ諸島現地調査第8次	テニアン島	2月21日~3月7日	2人
東部ニューギニア現地調査第7次	協議派遣	3月3日~3月10日	1人
インド現地調査第2次	ナガラント州コヒマ周辺	2月18日~3月5日	2人
インドネシア現地調査第3次	マノクワリ・ヤカチ	2月25日~3月6日	1人

<硫黄島 フォローアップ調査>

派遣名	実施地域	実施期間	本会参加人数
フォローアップ調査第12次	硫黄島	1月17日~2月1日	1人
フォローアップ調査第14次	硫黄島	2月14日~2月29日	1人
フォローアップ調査第15次	硫黄島	2月28日~3月13日	1人
フォローアップ調査第16次	硫黄島	3月12日~3月27日	1人

本会事務局 人事異動

- ▼事業部長 重井 敦
- ▼総務部長 小山 孝夫
- ▼広報室長兼会長秘書(部長職) 井上 春行
- ▼細貝 洋子

好業 慰霊祭
友事 祭で父に語りかける
親善 慰霊祭

慰霊祭で父に語りかける

マーシャル諸島・フィリピンで

戦没者遺児による慰霊友好親善事業では、マーシャル諸島、フィリピン2次地域を3月に相次いで実施した。全国から戦没者遺児、青年部等の付添者16人を含め総勢98人が参加し、永年の念願であった亡き父の眠る地で慰霊祭を執り行うとともに、各地においては小学校や病院を訪問し、現地関係者等と友好親善を図った。

マーシャル諸島は3月2日から3月10日、フィリピン2次は3月8日から3月16日の期間で実施し、各訪問団参加者は初日に東京・九段会館テラ



亡き父へ積年の思いを語りかける=3月5日、マーシャル諸島・クエゼリンで

ス及び靖国会館に集合し、結団式を行い、靖国神社で慰霊巡拝の奉告と旅の安全を祈願した後、亡き父が眠る緑の地へと出発した。

江田肇本会常務理事(埼玉県遺族連合会会長)を団長とするマーシャル諸島慰霊友好親善訪問団(団員14人、付添者含む)は3日午前、成田空港を出発し経田地のグアム島に到着。翌4日、チューク、ポンペイ、コスラエを経由し、米軍の基地施設となっているクエゼリン環礁のクエゼリン島に歩を印した。



サッカーボールなど学用品を小学校に寄贈する水落敏栄総括団長=3月12日、ミンダナオ島タモガンのマリログ・スアワン小学校で

7日にはマーシャル諸島共和国の首都マジュロからチャーター機で午前中にウォッゼ島を訪問し慰霊祭を行うとともに、現地医療施設に車椅子を寄贈した。午後にはマジユロ島でギルバート諸島方面を臨む海岸線で慰霊祭を行い、亡き父の冥福を祈った。

8日、「東太平洋戦没者の碑」前にて全戦没者追悼式を厳粛に挙行し、祭壇に献花し、英霊の冥福を祈った。

また、マジユロ市内の小学校を訪問し生徒たちに学用品、衣類、スポーツ用品等を、地元の病院には生活日用品やソーラーライト等を寄贈するなどして友好親善を図った。

水落敏栄本会会長を総括団長とするフィリピン慰霊友好親善訪問団(団員84人、付添者含む)は、C班はルソン島中西部のクラーク、ルソン島北西部のリンガエン湾付近やバギオ市内、ボンドック道の21K、ルソン島東部のサンタフェやバレットで、D班はルソン島北東部のソラノやキャンガン、パイバヨグで、E班はネグロス島のシライ山、マンダラガン山方面、ミンダナオ島のダバオ海岸やカタルナン、タモガンで、F班はセブ島のセブ観音やダオ付近、ソ

ゴト付近、レイテ島のイピルやオルモック近郊、マハンラグ方面、ピリアバで、G班はレイテ島のブラウエンやドラック付近海岸、マハンラグ方面、ピリアバ、ピリアバ海岸でそれぞれ慰霊祭を行い、亡き父に積年の思いを語りかけ、冥福を祈った。今回付添で参加した戦没者の孫の一人は、「父たち戦没者遺児の方々が亡き父と語り合い涙ぐむ姿を目の当たりにして、亡き父への熱い思いが伝わった。この貴重な体験を期に、二度と戦争をしてはいけないことを訴えたい」と話した。

3月14日、ルソン島ラグナカリラヤの「比島戦没者の碑」前で、在フィリピン日本国大使館より花田貴裕公使らが参列のもと、全班が一堂に会し全戦没者追悼式を厳粛に挙行し、英霊に感謝と哀悼の誠を捧げた。また夜には同日午後に着任した在フィリピン日本国大使館特命全権大使遠藤和也夫妻らを招待し、合同懇談会を開催した。

遺児、青年部(付添)参加者募集

令和6年度慰霊友好親善事業

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施している令和6年度「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」は、戦没者の遺児を対象とし、亡き父等の戦没地周辺を訪れ慰霊追悼を行うとともに、現地の方々との友好親善を深めることを意図として

令和6年度 戦没者遺児による慰霊友好親善事業概要

実施地域	実施時期	募集人員
1 旧ソ連※	令和6年8月上旬	40人
2 旧満州※	令和6年8月下旬	40人
3 ボルネオ・マレー半島	令和6年8月下旬	40人
4 トラック諸島	令和6年9月上旬	20人
5 パラオ諸島	令和6年9月上旬	20人
6 西部ニューギニア	令和6年9月中旬	40人
7 マリアナ諸島	令和6年10月上旬	40人
8 東部ニューギニア	令和6年10月中旬	42人
9 ビスマーク諸島	令和6年10月中旬	40人
10 インド	令和6年11月上旬	30人
11 フィリピン(1次)	令和6年11月上旬	120人
12 ソロモン諸島	令和6年11月下旬	40人
13 台湾・バシー海峡	令和7年1月中旬	40人
14 西部ニューギニア(特定地域)	令和7年2月上旬	36人
15 東部ニューギニア(特定地域)	令和7年2月中旬	36人
16 ミャンマー(特定地域)※	令和7年2月下旬	36人
17 マーシャル・ギルバート諸島	令和7年3月上旬	40人
18 フィリピン(2次)	令和7年3月中旬	120人
19 中国※	令和7年3月下旬	80人

※旧ソ連、旧満州、ミャンマー、中国地域については、実施が難しい状況にあることをご承知お願います。

日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。なお、賛助者の都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合があります。省略します。

- 澤田園子、芳賀京子、宇野多佐子、塩路茂一、宮武勝、片野幸雄、中村榮子、増川計、館隆子、村松久子、森本浩吉、松本文子、秀平八代子、井上緑、秀平良子、澤野八重子、澤野裕子、齋藤幾久代、藤田朋子、根岸峰夫、桑原三子代、川島義美、高橋満子、飯室道男、高野光義、吉村靖子、原嶋

宏文、伊藤和廣、森碧、石原新一、松浦孝一、カジヤマリュウジ、タナカヒロコ、ミヤザキリョウイチ、ナカムラミツグ、ウエムラミキオ、ソウトモトアキ、フルカワヒロコ(以上、3月1日から3月末日まで)

皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善等のさまざまな遺族会活動に利用させていただきます。



亡き肉親の冥福を祈り慰霊祭を斎行=3月12日、レイテ島・イピル海岸で

ミャンマー小学校修繕 修繕募金のお礼

ミャンマー小学校修繕募金にご賛同いただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。3月1日から3月末日まで

タカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等) ハシモトヒデオ(以上、3月1日から3月末日まで)

昭和館開館25周年 各種記念行事を開催

3月27日に開館25周年を迎えた昭和館では同日常設展示室の無料開放や先着250組に粗品を贈呈した。親子連れなど400人余りが来場し華やかな一日となった。これに先立ち3月初旬からは、25周年記念の特別企画展、写真展が開催され多くの来場者で賑わっている。今後も様々な記念事業を準備しており、幅広い世代への広報を図る予定である。

まずは、昭和館開館の経緯から振り返りたい。昭和50年代、青年部(当時・戦没者の遺児)から「遺児の思いを形に」という方向性で定まり、昭和54年に本会より戦没者遺児に対する個別給付に代わるものとして戦没者遺児に対する個別給付に代わるものとして戦没者遺児の遺族をはじめとする



御両親様

海軍一等兵曹 關 義信
昭和十九年十一月二日
富山県氷見郡神代村堀田出身 二十三歳

長らく御無音に打ち過ぎ申し訳ありません。その後、御一同様には益々元気に増産報国に精励、頑張つて居られる事と推察致し居ります。小生も相変はず元氣百倍といふ所で、軍務に奮闘致して居る次第です。内地も懐かしき春季の大祭も何時しか過ぎ、今、多忙なる農繁期の頃、さぞ皆様も御苦勞の事、推察致します。

我々も益々時局重大なる折、艦の修理も早く完成致し、近日中に完成の見込みです。完成の暁には再び戦線に急ぐ事とせう。(中略)

今日は三十九年前我々の先輩諸氏等が、日本海において敵ロシア艦隊を撃滅致した由深き記念日であります。此時に我々は一層一層決意を堅くして、皇国のために報ゆる覚悟を新たに、一日も早く戦線に出撃する日を楽しみに待つて居る次第です。皆様も健康には十分注意致され、今年も増産報国を目標に頑張つて下さい。本日は久しぶりに一筆申し上げた次第で、愚筆にて御免下さい。後日又便り。

御両親様

義信より

終

【令和六年四月靖国神社頭掲示】
愛しきものへ

れ、戦後70年の平成27年には、皇太子ご一家(現天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下)、秋篠宮ご一家がご視察された。開館から25年、総来場者は672万人を超えた。戦後生まれが国民の大半となった今日、昭和館の使命は高まっており、戦後80年に向け、一層注目を集めることが予想される。



開館記念日に来館した親子に記念品を贈呈する伍藤館長 = 3月27日、昭和館で

沖縄平和祈願慰霊大行進 参加者募集締切迫る

本会は沖縄県遺族連合会と共催で実施する「沖縄平和祈願慰霊大行進」の参加者を募集している。なお全戦域の戦没者遺族が参加対象となる。戦争の悲惨さ、平和の尊さを学ぶ実体験として、

▼費用 4万円〜5万円程度。
※費用には宿泊代、食事代、バス借上げ代、添乗員費用、懇談会費用等が含まれる。
②参加人数により費用が異なる。また、自宅から沖縄までの往復交通費、那覇空港から集合場所となる那覇市内のホテルまでの往復交通費は個人負担となるので、各自で手配願いたい。
▼宿泊 那覇市内のホテル。
▼申込先 在住する各都道府県遺族会事務局へ。
▼申込締切 5月9日(木)
なお、昨年同様、ひめゆりの塔前から平和記念公園までの約4キロを行進予定。

OBONソサエティ レックス・ジーク氏に栄誉 秋の外国人叙勲受章

戦没者遺留品の返還活動をしているアメリカの非営利団体OBONソサエティの代表であるレックス・ジーク氏が、令和5年秋の外国人叙勲で旭日双光章を受章し、3月15日、オレゴン州アストリアのコロナビア川海軍博物館で在ポートランド領事事務所の吉岡雄三総領事から勲章が授与された。



吉岡雄三総領事(左)から勲章を授与されたレックス・ジーク氏 = 3月15日、オレゴン州アストリアで

の促進及び日米の友好親善に寄与した功績が認められ、今回栄えある受賞となった。
本会は平成25年から同団体の活動に賛同し協力しており、同活動の拡大を国へ要望したことが

「戦没者等の遺留品返還に伴う調査事業」の創設に際し、本会が委託を受け令和元年度から同団体と再委託契約を結び、これまで400件以上の遺留品を遺族へ返還している。

本会事業 参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報(個人情報保護法)の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

九段短歌

選者 村田 信昌

八十年を眠れる戦地と遠い故郷(くに)ふるさとを二つ我が父は待つ

青森県 田中 恭子
南国より水欲しと日々訴へし伯父の手紙の絶筆となる
福島県 柴田 征子
年重ねニューギニアに眠りし父よ又めぐり来る七十九年目の春
群馬県 須賀 宏江
押花を桜の花を送つてと北満からの便りの終りに

栃木県 西村三千代
父戦死の公報を握りしむる母を見上げあし吾小一の春
千葉県 石橋 嘉子
出征の父の見送りも英霊となりて迎へるもこの駅なり

長野県 塩川 篤子

『平家物語』の巻一には、白河法皇が「賀茂河の水、双六の賽、山法師、是ぞわが心かなわぬもの」と嘆いたという逸話があるが、同様に桜の開花も意のままにならない事象のひとつである。今年、靖国の桜は前年の開花日より半月遅れて花開いた。満開の桜を楽しみに参拝旅行を計画されていた方々には大変お気の毒でしたが、春の気まぐれもまた、いとおかしとお許し下さいませ。今月の短歌は春に因んだ歌が多くございました。ご家族を案じたお手紙の最後に、せめて故郷の押花の桜を送つて欲しいと願われたお気持ち切なく心に沁みました。

(選者)

お詫び

3月発行の第879号で、次の誤りがありましたので、訂正し、深謝いたします。4面「滋賀県で遺留品返還」の記事で掲載した「千人針帯」の写真が違っており、誠に申し訳ございません。正しくは「たすき(岸田長次郎君)」の左横の写真となります。

